



2



1



4



3

- 1. 2日間で約6000名が来場し、慰霊碑に花を手向けた
- 2. 追悼の言葉を述べる東梅町長職務代理
- 3. 被災者名簿は、遺族代表の加藤伸基さんによって奉納された

- 4. 慰霊碑の後ろには、菊の花によってひょうたん島がかたどられた
- 5. 児童代表で追悼の言葉を述べた佐々木晴也さん、倉本万愛さんはともに小学6年生
- 6. それぞれの思いをかみしめる様に、静かに手を合わせる参列者



6



5



前を向くために

6・18 犠牲者合同慰霊祭

6月18日、東日本大震災の日から数えてちょうど100日目となったこの日、大槌町東日本大震災犠牲者合同慰霊祭が行われた。翌日19日は、大槌町東日本大震災犠牲者お別れの会と題した遺族以外の参列者のための会が行われ、2日間で約6000人が来場し、慰霊碑の前に献花した。

合同慰霊祭には、震災で亡くなった方々の遺族が招待され、約2000人が参列した。被災者の名前が読み上げられ、その名簿が慰霊碑に捧げられた。未だ行方不明の方の家族も、お別れの会に参加し、花を手向けたが、共通して口にしたのは、「はじめ、気持ちの区切りをつけたい。」という言葉だった。

児童代表の佐々木晴也さん、倉本万愛さんは、追悼の言葉の中で、「いただいた応援を勇氣・やる気・元気のもとにして、心をつなぎ、大きな力として前進したい。」と述べた。

慰霊の花を手向けることで、悲しみにくれる日々を区切りを付け、家族のため、自分のため、人々は前を向いて歩き始めた。